

## 第3回 篠路駅東口駅前広場の在り方検討会議 議事要旨

【日時】平成30年10月2日（火）18:00~20:00

【場所】篠路出張所

### 【出席者】

○委員（全14名）

地域委員（11名）

所属/役名等	氏名（敬称略）
篠路連合町内会/会長	伊藤 英夫
篠路連合町内会/副会長	進藤 幸司 （欠席）
篠路地区街づくり促進委員会/会長	井形 信広
篠路地区街づくり促進委員会/副会長	山田 勝敏
篠路地区街づくり促進委員会/総務理事	熊澤 修
篠路中央商店街振興組合/副理事長	寺田 哲
札幌市農業協同組合/理事	高見 敏文
篠路地区社会福祉協議会/会長	藤井 國夫
わきあいあい篠路まちづくりの会/会長	石本 依子
区画整理地権者	砂山 康俊
区画整理地権者	中西 昌裕

有識者委員（3名）

所属/役名等	氏名（敬称略）
北海道大学大学院工学研究院/教授	小澤 丈夫
北星学園大学経済学部/教授	鈴木 克典
NPO法人旧小熊邸倶楽部/理事長	東田 秀美

○ オブザーバー

所属/役名等	氏名
まちづくり政策局総合交通計画部 交通計画課/交通施設担当課長	長南 成明
建設局土木部 道路課/特定街路担当課長	櫻井 英文 (代理：小林道路課長)
都市局市街地整備部 区画整理事業課/区画整理事業課長	久米田 真人
北区市民部 篠路出張所/篠路出張所長	國方 大翼

○ 事務局

所属/役名等	氏名
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/事業推進課長	高田 洋
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画調整担当係長	若林 裕也
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画係	森川 雄太
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画係	大路 陽介

**【議事・進行】**

1 配布資料の説明について

- 第3回篠路駅東口駅前広場の在り方検討会議 . . . . . 資料1

2 検討資料等に関する意見交換

## 【議事要旨】

### ○会議の開催方法について

(事務局)

- ・ 検討会議の開催回数について、これまでの議論を踏まえて、より議論を深めていくには少し時間を要すると考え、2回追加させていただきたいと考えている。

(委員長)

- ・ 事務局から、検討会議を2回追加したいという提案があったがいかかがか。

(委員一同)

- ・ 異議なし。

(委員長)

事務局の提案どおり進めさせていただきたいと思う。

### 1. 配布資料の説明について

(1) 検討事項と市の考えについて(第1回、第2回検討会議を振り返って)

※以下、「○」はこれまで出された意見、「・」は意見に対する市の考え

(事務局)

(検討会議の進め方について)

○駅前広場の機能を決めてから篠路高見倉庫(株)の軟石倉庫(以下、「軟石倉庫」という。)が残る余地があるのか検討する、軟石倉庫を残すか決めてから駅前広場を検討する必要がある、軟石倉庫の保存ありきの進行はおかしい、検討会議で何をまとめるのかがわからないという意見が出された。

- ・ 検討会議は、地域とともに篠路駅東口駅前広場の在り方を検討するために設置し、活動内容は、①駅前広場の機能確保とにぎわい創出に関する意見交換、②①を踏まえた整備内容に関する意見交換、③意見交換内容の集約及び札幌市への助言により、提言書をまとめること。
- ・ 駅前広場について、実現性を加味した交通結節機能確保、軟石倉庫の地域資源として将来のにぎわい創出に寄与する可能性など、検討会議としての方向性を取りまとめていただき、札幌市は意見を踏まえて今後の展開を検討する。

(バスの乗り入れとロータリーについて)

○将来、駅前広場にバスが乗り入れるのかがわからない、乗り入れる可能性が低い場合は乗降スペース1台で良いのではないか、あるいは将来の可能性を考慮して乗降スペースは2台確保しておくべきという意見が出された。

- ・ バス事業者と協議した結果、将来の土地利用やバス便数等の運用状況、地域のニーズ等を踏まえ市等の関係機関と協議して判断する、乗降スペースが2台分あることが望ましいと伺っている。
- ・ バス事業者との協議を踏まえ、札幌市は、バス乗降スペース2台分の確保が必要と判断する。
- ・ 駅前広場への乗り入れのメリットは、①上屋の整備や駅舎での待合など、快

適な待合環境の確保、②JR駅からバス停への移動距離が短く、歩道も広くなることによる乗り継ぎの利便性向上の2点が挙げられる。

- 駅前広場には、将来的に考えられる各種の交通機能を全て受け入れることができるよう、必要となる空間を確保するのが基本的な考え方の一つである。
- 駅前広場の歩行空間は、歩道幅員に余裕を持たせた滞留機能を兼ねた歩行者に優しい空間とし、交通機能は、バスの回転半径等を考慮した面積や形状を設定している。また、オープンスペースとしての災害対応機能の役割も期待される。

(篠路駅の将来予測等について)

○篠路駅の各交通機関の利用者人数など将来予測はできないか、駅前や駅舎をイメージできるものがあると参考となるという意見が出された。

- 将来人口推計の傾向に基づき、各交通機関の利用者数を推計した。平成18年度の交通利用実態調査の結果から、篠路駅の乗降者が各交通機関に乗り換えた割合を算出し、2016年の篠路駅の1日当たりの乗降者約6,200人にあてはめると、徒歩が約4,700人、バスへの乗継は約100人となる。
- 駅の利用者数の減少ペースは緩やかであると考えており、2030年度でもバスの利用者数は1日当たり100人程度いると予想される。
- 将来交通量の推計は、篠路駅西通の開通や鉄道高架事業の整備効果を反映していないため、今後まちづくりが進み、当地域の集客力が向上した場合に示した数値を上回ることも考えられるため、参考程度に考えていただきたい。
- 駅前広場のイメージは、都市計画決定時の想定として、バス乗降スペース2台、障がい者用乗降スペース1台、自家用車乗降スペース1台、タクシー待機スペース2台であり、あいの里教育大駅をイメージするとわかりやすい。
- 駅舎は新琴似駅のように、入り口から改札を抜けて、エレベーターや階段を使って2階へ上がり、電車に乗るイメージとなる。ただし、篠路駅とデザインや大きさは異なることになるため、参考として考えていただきたい。

(軟石倉庫の価値と存続について)

○軟石倉庫について、特に価値を感じない、残してほしい、わきあいあい篠路まちづくりの会の事業計画は実現が難しいのではないかと、残す場合の課題抽出が必要、所有者の意向が重要、意向確認が必要という意見が出された。

- さっぽろ・ふるさと文化百選や北区の八十八選に選定され、札幌の歴史的建造物を紹介する書籍等への掲載歴もあり、文化財や景観の観点から一定の価値が認められると考えている。一方で、札幌市が通常の駅前広場を整備する以上の費用負担は難しく、札幌市が軟石倉庫を所有して保存していくことは難しい。
- 現都市計画の状況で軟石倉庫を現位置で存続させる場合、事業認可の手続開始までに残したい主体には確度ある事業計画を取りまとめいただく必要がある。第2回検討会議で提案された事業計画は、課題が多く、行政としてこれをもとに軟石倉庫の存置を判断し、土地区画整理事業を進めていくことは

難しいと考える。

- 軟石倉庫所有者からは、今後も札幌市の事業に協力する、ここでそのまま倉庫業を継続するが、まちの形態に合わせて事業展開を考えていくと伺っている。

(軟石倉庫の民間活用について)

- まちづくりの中で軟石倉庫の存続を考えるべき、軟石倉庫の民間活用を図りたい、民間活用という形での事業としての成立は困難ではないか、わきあいあい篠路まちづくりの会の提案は将来の魅力的な活用の可能性を残すものという意見が出された。
- 軟石倉庫が建物として残った場合、景観要素として賑わい創出に貢献することで、まちづくりにつながる可能性はあると考えている。

(駐輪場について)

- 駐輪場は整備されるのか、軟石倉庫を事業期間中に有料の駐輪場として暫定的に活用したいという意見が出された。
- 事業期間中は既存駐輪場等を活用する予定であり、事業完了後は鉄道高架下に設置できるようJRと協議をしているため、軟石倉庫を駐輪場に活用することは難しい。また、篠路駅で有料の駐輪場をつくる計画はない。

(駐車場について)

- 駅前に駐車場は整備されるのかという意見が出された。
- 駐車場を整備する予定はないが、JR北海道がパーク・アンド・ライドの考え方で鉄道高架下を活用した駐車場を整備する可能性はあると考える。

(篠路出張所について)

- 篠路出張所が移転するのか分からないという意見が出された。
- 現在、窓口サービス等の充実と、これらの拡充に伴い必要となる庁舎の改修等を検討しているが、建物は耐用年数に達しておらず、現時点で建て替えや移転の予定はない。

(交番について)

- 交番はどうなるのか、誰かが交番に交渉してほしい、道路上に軟石倉庫の資材を活用した交番を設置したいという意見が出された。
- 北海道警察より、建物の老朽化は進んでいるが、現時点で建て替えの予定はなく、土地区画整理事業の進捗を踏まえて判断したいと伺っている。

(バリアフリーについて)

- バリアフリーについての話し合いが必要、交通結節点において歩きやすさや動きやすさを考慮することが重要であり、高齢者やベビーカーの利用なども踏まえて議論すべきという意見が出された。

- ・今後の整備事業のなかで、駅舎や周辺道路のバリアフリー化を図り、エレベーターや2段手すり、障がい者等用の乗降スペース、多機能トイレ、点字ブロックなどを設置し、誰もが使いやすい駅舎や駅前広場を目指す。

(篠路のまちづくりの目指す方向性について)

○札幌市がどうしたいのかが見えない、駅前広場の在り方について商業施設等により繁栄するなど華やかにする意見が出てくると思ったのに残念、札幌市として10年後の姿をみせてほしい、未来に向かって良い街になるような計画を立ててもらいたいという意見が出された。

- ・地域交流拠点や交通結節点としての役割を担えるよう、商業・業務・医療などの中核的な都市機能の集積を図っていききたい。
- ・駅前街区は、社会基盤整備により土地のポテンシャルが増大するものと認識しており、民間等による開発により高度利用が図られることを期待している。
- ・駅前街区への都市機能の集積、高度利用に向けた支援について引き続き検討していききたい。一方で、社会基盤への投資が完了した後の篠路のまちづくりに対し、行政だけでできることには限界があり、地域の皆様と札幌市の協働によりまちづくりを前進させ、将来像を具体化させていく必要がある。

(2) 駅前広場の整備について

(事務局)

(事業スケジュール)

- ・土地区画整理事業は、2018年度に事業認可、2021年度頃に建物の移転工事、2022年度頃に道路工事が開始できるよう検討を進めていた。
- ・これまでの議論は、都市計画の変更は行わないことを前提に議論していただいたが、2018年度の事業認可は遅れてしまうが、仮に概ね2019年の中頃までに都市計画変更の決定を受けることができれば、建物の移転や道路工事の開始年度を変えずに進められる見通しがついた。
- ・以上を踏まえ、札幌市として、これまで議論していただいた2つの案(現計画、ロータリー縮小)のほかに、イメージ案3(都市計画変更)を加えた全3案を提示させていただく。
- ・駅前広場について、検討事項と市の考え、土地区画整理事業のスケジュールをもとに、実現性を加味しながら交通結節点としての機能及び利用者の安全性、利便性を確保するとともに、将来のにぎわい創出に向けて、どの案が望ましいか検討を行っていただきたい。

(イメージ案1(現計画))

- ・駅前広場として、円滑に車両が通過でき、スムーズな乗継を考慮し、バス乗降スペースなどの機能を設けた形状を想定して都市計画決定を行っている。

(イメージ案2(ロータリー縮小))

- ・ロータリーを縮小させた場合も、バス乗降スペースは2台分確保できるよう

にしたいと考えている。

- イメージ案1と比較した場合のメリットは、軟石倉庫の一部を残すことができるスペースができる。軟石倉庫を存置する場合、担保できる事業計画が必要となる。
- デメリットは、駅舎から各交通機関へ乗継ぐための移動距離が少し長くなること、ロータリーが狭くなり車両の通行がしにくくなること、冬季の堆雪スペースが小さくなることが挙げられる。
- 堆雪スペースに対する補足説明だが、ロータリー内の雪はロータリーの中心に向かって雪を積み上げていくことから、ロータリーが大きいほど、駅前広場内の車道幅員を確保できる。
- 駅前の地権者である篠路高見倉庫(株)の高見泰弘氏とお話した際には、冬季は自身で除排雪を行っているということもあり、ロータリーの検討に当たっては冬のことも考えてほしいと伺っている。

(イメージ案3 (都市計画変更))

- イメージ案1と比較した場合のメリットは、軟石倉庫を現状のまま残すことができる。
- デメリットは、駅舎から各交通機関へ乗継ぐための移動距離が少し長くなること、駅舎の正面から東口駅前広場が少しずれることが挙げられる。
- 都市計画変更の手続が必要なため地域がまとまって当該案がよいという結論になることが必要であること、駅前広場内の車両の出入りに際し安全性を確保する必要があることが課題として挙げられる。
- なお、都市計画の変更に係る手続が必要となるが、全体的な工事のスケジュールには影響を及ぼさないように調整ができると考えている。

(3) 今後の進め方(案)について

- 第4回、第5回検討会議は、篠路出張所で午後6時から開催し、第4回検討会議で意見の集約、イメージ案の選択を中心に議論いただき、第5回検討会議で検討会議の意見を提言書として取りまとめていただきたいと考えている。

## 2. 検討資料等に関する意見交換

(1) 検討事項と市の考え方について(第1回、第2回検討会議を振り返って)

(委員長)

- 事務局からの説明事項について、私の方で重要だと思ったポイントは次の2点である。
- 一つ目は、本検討会議は、篠路駅東口駅前広場の在り方について議論の場であること。また、議論した内容を集約し、札幌市への助言という形で提言書としてまとめることが目的であること。
- 二つ目は、今回、前回までに出された皆さまからの様々な意見や質問に対し、

一定の回答を得たこと。

(委員)

- 札幌市のまちづくりにおいて、中央区以外は大幅な人口減少が予想されており、少子高齢化が非常に問題になっているなかで、篠路駅周辺は人口減少が少ないような印象がある。
- 将来交通量の推計は現分担率によるものであり、バス利用に関しては大きい数字ではないが、今後の区画整理や土地の高度利用などによるが、非常に大きなポテンシャルがあると感じている。将来の可能性があるということを踏まえて、皆さまに議論していただければよいのではないか。

(委員長)

- 将来交通量の推計について、交通機関の利用者が減少しているという数字が出ているものの、札幌市全体の人口減少率に比べて篠路駅周辺の減少率が非常に低いことを理解しておくことが大事だと思う。

(委員)

- 比較的若い方も移住してきていることや社会増がみられるなど、魅力ある土地としてポテンシャルがあるということだと思う。

(委員長)

- 今の意見のような考え方を追記したほうがよいかと思う。

## (2) 駅前広場の整備について、(3) 今後の進め方(案)について

(委員長)

- 駅前広場について、札幌市から提示された新しい考え方や選択肢をもとに、軟石倉庫も含めた駅前広場の機能等の検討材料を踏まえた上で、どのようにしていくのか意見をいただきたい。

(委員)

- 篠路高見倉庫(株)は今後も現在の場所で営業していくのか。

(事務局)

- そのように意向を伺っている。

(委員)

- 札幌市では、イメージ案3でどうかという提案なのか。

(事務局)

- 札幌市としては、駅前広場として交通結節点の機能は確保すべきという意見や、軟石倉庫に価値があり残していきたいという意見やがある中で、お互いが納得する形でまとめるのは非常に難しいと考えていた。
- その中で、土地区画整理事業において、都市計画の変更が当初考えていた事業スケジュールに大きな影響を与えずにできるということが見えてきたため、これまでの検討会議での意見を両立させる案としてイメージ案3を提案した。
- ただ、都市計画の変更にあたっては、地権者のご理解も必要であることから、先ほどの説明のように所有者の意向を伺った。

(委員)

- 都市計画が変更された場合、軟石倉庫はこのまま残るということか。

(事務局)

- そのとおりである。

(委員)

- 将来の駅前広場を考えたときに、禍根を残さない駅前広場の機能を確保していくことを中心に考えるべきと意見してきており、2台分のバス乗降スペースや、身障者、タクシー、自家用車の乗降スペースの確保を考えると、イメージ案1または3のスペースが必要であると考えている。
- その中で、軟石倉庫所有者が現在の場所で事業継続する意向が固まったのであれば、イメージ案3によって必要なスペースを確保していくように進めていけばよいと考える。
- 軟石倉庫所有者の意向を尊重し、イメージ案3を出した気持ちも分かるが、駅前の整備は土地買収や道路の拡幅など個人の権利の問題が生じる中で、札幌市の方で補償など条件をもって事業を進めていかなければ何もできないことになる。軟石倉庫以外にも、個人の所有権と対峙する場面が出てくると思うが、札幌市の方で頑張ってもらいたいと思う。
- イメージ案3の場合、どの程度のスペースをイメージしたらよいのか。

(事務局)

- 駅舎は、JRの列車が最大で6両編成であるため、新琴似駅と同規模程度のものが出来上がると考えている。駅前広場は、あいの里教育大駅前にある広場より若干狭い面積になると考えている。

(委員)

- あいの里教育大駅より若干狭い程度だと、相当広いスペースだと考えられる。

(事務局)

- 篠路駅の1日の乗降人員約6,000人に対し、あいの里教育大駅は約7,600人である。また、駅前広場の面積は、現在想定している篠路駅の3,700㎡に対し、あいの里教育大駅が5,400㎡である。イメージするのは難しいかもしれないが、データとして頭の中に入れていただければと思う。

(委員)

- まちづくりについて、目先の問題も大事であるが、孫子の代までを見越して、夢が広がるような開発が必要である。そうになると、子どもたちが明るくて元気なまちだと思ってくれるようなイメージにすることが、活力あるまちづくりの第一条件だと思う。
- 駅前広場の在り方の1つとして、多目的な使い方ができるスペースや広がり、明るさが必要ではないかと思う。
- 鉄道は、まちの発展の最初の段階ではよいが、東西に分断されるため広がりが出てこない。東西の繋がりを利用した人的、物的、文化的な交流が繋がっていくことが大事だと思うため、スペースのイメージを聞いた。

(委員長)

- 駅舎の規模は新琴似駅と同規模程度で、資料は1階のコンコースが東西に繋

がる空間のイメージを示していると思う。駅前広場の大きさについては、あいの里教育大駅の3分の2の大きさをイメージしていただければよいと思う。

- ・ 前回、色々なことを考える上で、都市計画の範囲を変えずに縮小していく案としてイメージ案2が議論されたと思うが、反対ということであるか。

(委員)

- ・ 軟石倉庫が必要ないという訳ではなく、今言ったイメージの中でスポットとして活用できる明るい案があれば、素晴らしいものになると思っている。
- ・ 札幌市から軟石倉庫に価値があり、まちづくりに繋がる可能性があるという回答いただき、わきあいあい篠路まちづくりの会の意見と一緒に一緒に思っている。
- ・ わきあいあい篠路まちづくりの会では、イメージ案3であれば、軟石倉庫3棟全てが残ることや松の木も残ることから支持したい。
- ・ 前回検討会議では、軟石倉庫の使い方についていくつか提案したが、道路であることを前提に考えた提案であり、篠路高見倉庫(株)が現在の場所で事業継続していくことになれば、札沼線の成り立ちや篠路駅と軟石倉庫の関係など、歴史上のことを継承していける形であると思っている。
- ・ 駅前のイメージ像について、前回の会議でも軟石倉庫と道路の整合性が論点だったことを考えると、札幌市から今回提案があったイメージ案3は整合性が取れてよいのではないかと思った。イメージ案1と2の解決しなければならぬ課題に比べれば、イメージ案3が大変良いと思う。
- ・ 札幌市の説明内容は、中身に関しては役所的な見解が多いと感じたが、できる範囲のなかで用意していただいた点は評価している。篠路出張所の移転や、交番の建替えを全て先延ばしするということであるが止むを得ないと思ひ、その中で考えていかなければならない。
- ・ 駅前のロータリーに関しても、様々な意見が出ているなかで調整した結果、双方にメリットのある意見を提案した札幌市を評価したい。
- ・ 軟石倉庫について今は答えが出なくとも、10年後には答えが出るかもしれない。軟石倉庫の検討を先延ばしの状況でもいいのではないかと考えると、イメージ案3が現在のところ一番合致していて進めやすいのではないか。
- ・ イメージ案3を出してくれて大変ありがたいと思っている。篠路高見倉庫(株)の代表取締役も市の事業に協力する、倉庫業は継続し、まちの形態に併せて事業の展開を考えていくという意向を示してくれており、それらを考慮するとイメージ案3が最良だと思う。
- ・ 一方で、駅前広場周辺を明るくして整備していくことが極めて大事だと思っており、そこを意識して進めていただければ、交通結節点、地域交流拠点として、イメージ案3は大賛成である。
- ・ まちづくりのワークショップ参加者からは、軟石倉庫を1棟でも残して欲しいという意見が圧倒的に強かったので、3棟残るのであれば良かったという思いを強くするのはではないか。
- ・ 札幌市から昔に見せてもらった図面では、駅前広場と駅舎が南側に寄っていたのが、昨年度の都市計画の決定の段階になり北側にずれた。どういう経緯でずれたのかは分からないが、検討会議を最初に立ち上げて議論していれば、

何回も議論する必要がなかったのではないか。

(事務局)

- 最初に都市計画決定された内容では、駅舎も駅前広場も南側にあったということかと思うが、これは鉄道高架を想定したものではなかった。今回は、鉄道が高架になることを考慮し、また、西口にある駅前広場に相對する形で配置したのが現在の駅舎の位置である。
- 札幌市の進め方に対しては、まちづくりワークショップも重ねた中で、軟石倉庫の存置は課題が多いことも話しながら進めてきた。また、都市計画決定に向けても地元での説明会を重ね、協議を十分行ってきたと考えているが、結果として地元の意見を集約しきれていなかったことは、反省点として考えている。

(委員)

- 軟石倉庫について、札幌市として文化財や景観の観点から一定の価値が認められるというように明記していただいたことや、軟石倉庫所有者の意向を札幌市のほうでまとめてきてくれ、この場で聞くことができ本当にありがたいと思っている。
- 歴史的な軟石倉庫が篠路にあることを市民や篠路の皆さまに分かっていただき、営業は続けていくかもしれないが、何かしら景観要素としてプラスになるように動いていくことができる可能性を見ることができたと思っておりイメージ案3を支持したいと思う。
- 検討会議を余り長く続けず、すぐに決めればよかった部分もあるかもしれないが、駅前の方向性について、今回、篠路の人達だけではなく、市役所の内部でも色々と議論してきたと思うので、こういった議論がされたことをプラスのほうに考え、良い篠路のまちづくりを今後も続けていければと思う。
- イメージ案3について、事業の核となる部分の着手時期を変えることなく、都市計画変更も含めて実現の可能性があるということで提案いただいたが、札幌市としても厳しいスケジュールで行えばできるということであり、そのような中で提案いただいたことに敬意を表したいと思う。
- 今回は、皆さまの様々な意見を聞くなかで、地権者や篠路高見倉庫(株)の意向にも反対することなく進められるのであれば、イメージ案3がよいと思う。
- 交通面を考えても、駅舎の出入口が南側になると自由通路に面しており、交通の動線や移動距離が大きく伸びるわけではないので、そこまでデメリットがないと思う。また、篠路駅の象徴的な松の木も残せる可能性があり、バス乗降スペースも確保できる。
- 篠路駅の西口もそうだと思うが、最近ではキスアンドライドとして、送迎などの面でもある程度のスペースを確保できたほうが交通結節点としての機能が発揮される。人口減少の話もしたが、交通の便が良いことにより、若い世帯の移住や高度利用の可能性も高くなる。
- 今までは、皆さまの意見が色々あり、余りにもかけ離れて現実とは違うということが多々あったかと思うが、本日の会議で着地点に大分近づいたと思う。

(委員長)

- イメージ案3について、概ね皆さまが肯定的で前向きな意見だったと思う。一方で、市の事業には個人の土地を収用して行う部分もあり、地権者に譲るといったイメージを与えれば先の事業が進まないため、そのようにはなってほしくないという意見があった。
- 駅前のスペース、ロータリーを小さくすることは皆さまも反対で、バス乗降スペース2台分を確保しつつ、確保したスペースを活用するソフトの部分も考えいかなければいけないという意見があった。

(委員)

- 駅前の整備は、皆さまが言うように概ねイメージ案3でよいと思っているが、あいの里教育大駅前の広場の面積は、篠路駅前広場よりも広いものの片側だけであり、篠路駅のように両側にある駅は他に余り無いので、将来的には凄く発展する地域だと思う。
- ただ、篠路駅から篠路出張所へ行く通路が確保されていないため、篠路駅から真っすぐ篠路神社を通り、篠路出張所に行ける通路を整備してもらえれば利便性が凄く高くなるのではないかと思う。

(オブザーバー)

- 篠路駅と篠路出張所へのアクセスについて、将来的に検討していく必要性は感じているが、多くの方が出張所へ自家用車で来所している実態もあり、駐車場整備とJRとのアクセスとのバランスを取りながら検討していきたい。

(委員長)

- 今回で結論を出すということではなく、意見集約は次回になっているため、札幌市への意見や宿題があれば積極的な意見を伺いたいと思う。

(委員)

- 篠路の再開発に対して促進委員会が中心になって市長への要望を行ってきたが、市議の皆さまがしてくれたことに対して感謝もしなければいけなく、40年掛かってここまで来たのは我々だけの力だけではないところ。
- そのような中、将来において、子どもたちが篠路で安心安全な生活ができ、豊かに暮らせる防災に強いまちづくりを札幌市にお願いしたい。
- 私は、イメージ案3について、タクシーやバスから降りた人が駅から遠くなるイメージと、ロータリーに初めて入ってくる乗用車が直進して対向車と正面衝突するのではないかと心配であるため余り好んでいない。駅舎を南側に移動することにより、歩行者の動線が近くなると思うがそれはできないのか。

(事務局)

- 駅の位置については、東西を結ぶ自由通路が肝心と思っており、札幌市としては、現在の位置にあるのがよいと考えている。一方、変える余地があるかはJRとの協議にもよるので否定することはできない。

(委員長)

- 道路の線形なども気にされていると思ったが、そのあたりの回答はよいか。

(委員)

- ロータリーは一方通行になり、右折で進入するのが一般的だと思うが、示さ

れている図では左折で進入することになっているので進入の面で心配だった。

- 私も駅舎を移動することには大変関心を持っていたが、西口のロータリーの問題が出てくると考えた場合は無理だと思った。イメージ案3でも駅舎からバス停、タクシー乗り場までさほど距離がないため、歩く距離が長くなるということはないか。

(事務局)

- 極端に何十メートルも遠くなるということではない。

(委員)

- それであればイメージ案3でいくしかないという感じを受けている。
- イメージ案3について、駅前広場の形状を検討した結果、決定するタイミングはいつになるのか。

(オブザーバー)

- 松の木は JR の所有物であるため、現在行っている駅舎の設計により、工事に支障が出るようであれば、現在の位置に残せないことになるかもしれないが、検討会議で出た意見を考慮してこのようにしている。
- ロータリーの形状は、バスが回転するための軌跡を描き、縁石や駐車しているタクシーにぶつからないように詳細な設計をする。都市計画を変更する場合は、来年 1 月くらいに説明会を開催したいと思っているが確定ではない。

(委員)

- 説明会を開いていただくことになるのか。

(オブザーバー)

- 都市計画の変更を望む提言書が提出され、札幌市として都市計画の変更の手続きを進めていく場合、説明会を開いていかなければいけないと考えている。

(委員)

- 北区土木センターと意見交換しているなかで、松の木は恐らく工事に支障があるため、西口のロータリーに移植すると聞いている。

(オブザーバー)

- 松の木は、移植となると木への影響が大きいいため、現在の位置で残したいと考えているが、どうしても工事の支障になるということであれば、西口のロータリーに動かしてしまうこともあり得る。

(委員)

- 北区土木センターは西口に移植すると話していた。

(オブザーバー)

- 北区土木センターに確認したが、そのようには話していないということだった。松の木は地元の方と話して決めていかなければいけないと思っており、JR の設計の動向を見て協議させていただきたいと思う。

(委員長)

- 検討会議について、残り 2 回のなかで検討できることと、そこで答えが出せることと出せないことがあると思う。検討事項として持ち越す内容については、本会議終了後、どのように地元の皆さまと共有して解決していけるか、その仕組みを明らかにしていただきたいと考えており、次回までに整理して

ほしいと思うがいかがか。

(委員)

- 意見の集約が概ねされつつあるが、細かい希望や懸念があると感じる。
- 本日の内容について、促進委員会としてどの案が一番よいのか、それに際してどのような懸念事項や改善点があるのか、臨時総会を開いて意見の取りまとめを行い、次回の検討委員会で話しをしたいと思っている。

(委員長)

- 委員の皆さまも色々な団体を代表して本会議に出ていただいているが、地域の皆さまと共有すべき大事な問題なので、もう少し広く意見を聞いてまとめたいと思っていた。今の提案に賛同いただけるようであれば、概ねイメージ案3でまとめつつあるという前提のもと、各団体で懸念事項などをまとめて次回に持ち寄る形がいいのではないかとと思うがいかがか。

(委員一同)

- 異議なし

(委員長)

- 各団体、組織の考えもあると思うので、出てきていただいている委員に任せたいと思うが、概ね今の意見のもとでまとめていきたいと思っている。
- 札幌市への宿題として、検討事項や調べておいてほしいことなど何かあるか。

(委員)

- 今後は土地区画整理などの地権者に対しては丁寧に説明を行い、お互いにコミュニケーションをとりながら、篠路の再開発のために協力を願うような体制でお願いしたい。
- 将来の人口推計に基づく交通量について、交通機関に対しての分担率のデータが平成18年の統計ということであるが、その後バスの路線や本数が減少するなどしているので、将来的なことを考えていく上で、新しい数値を示すことはできないのか。

(オブザーバー)

- 将来交通量推計は、パーソントリップ調査結果をもとに数字を算出しており、今示しているものが最新の数値となっている。

(委員)

- パーソントリップ調査は、最近では調査が行われていないため、数値としてはこれでよいが、他の駅の分担率で、整備後のバスの乗り入れや公共交通の利用により変化があった事例を示していただけると、イメージしやすいと思う。
- イメージ案3の課題として、軟石倉庫の出入りや駅の利用者が増えたときにはそれなりの交通量にもなるので、安全性がある程度見込めるというイメージを示していただければよいと思う。
- 一方通行への進入の問題もあるが、サイン計画など色々と工夫の余地はあるかと思う。札幌市に負担を掛けることになるが、安全性がある程度確保できるという事例等を示していただければ非常にありがたいと思う。

(委員長)

- 今の意見内容への対応は可能か。

(事務局)

- 安全性について、関係部局とも今後協議しながら検討して進めていくことを考えていた。
- 次回の検討会議までに1カ月ないなかではあるが、各委員から質問があった事項について、できる限り整理して示したいと考えている。

(委員長)

- 本会議では最終的に提言書をまとめるので、札幌市が今の時点で回答できないことに対しては、我々から検討事項として提言すればよいと思っている。時間が限られているなかで、全部を解決するのは当然無理なので、札幌市からの回答に対し、我々がどう提言するかが非常に大事になってくるかと思う。
- 私が特に気にしているのは検討会議が終わった後の進め方で、どのような形で地元の意見を集約、議論できるのか案を出していただきたい。

(委員)

- 安全性に関する指摘は、解決のための案を示して欲しいということではなく、安全性の問題としてしっかり受けて止めてほしいというのが趣旨である。

(委員長)

- 本日の内容について、皆さまの所属組織で持ち帰って検討いただいたうえで、最後、提言という形でまとめていきたい。次回は、持ち帰って検討いただいた内容を踏まえて議論し、まとめる作業に入っていきたいと思う。

(事務局)

- 次回は11月1日、篠路出張所2階にて18時から開催する。